

妙義3校授業の進め方の基本形

- 3校で学習過程の基本形を共有して、小学校から中学校への授業の移行がスムーズに行われるようにしましょう。
- 何を学んだかが分かる授業づくりや言語活動の充実をすることで、中学校区全体の学力を向上させましょう。

① 問題提示：児童生徒が主体的に取り組もうとする問題を提示しましょう。

- ・子どもが興味・関心を示す問題
- ・身近な問題
- ・必然性のある問題
- ・解決に必要な条件を隠した問題
- ・これまでの学習や経験を活用すれば解決できる問題

② めあてづくり：本時の学習が何を学ぶか、児童生徒と一緒にめあてをつくりましょう。

- ・問題をどのようにすれば解決できるか、おおまかな見通しをもたせた後に、児童生徒の言葉を使ってつくりましょう。めあての内容は、Let's「しよう」ではなく、How「どのようにすれば」です。
- ・めあての「答え」が「まとめ」になることを意識しましょう。

③ 自力解決：見通しをもとに、自力で解決方法を考え、答えを出せるようにしましょう。

- ・見通しがあいまいな子どもに対しては、助言やヒントカードなどを与えて解決を支援しましょう。
- ・時間をかけすぎないようにしましょう。全員ができるまで待たなくてもかまいません。

④ ペア・グループ解決：理由や根拠をあげながら、互いの考えを学び合えるようにしましょう。

- ・学び合いの視点を明確に示しましょう。
- ・自分の考えに自信をもったり、追加や修正をしたりできるようにしましょう。
- ・グループ形態やシンキングツールの活用など、交流が活発に行えるように工夫しましょう。

⑤ 全体での確認：全員で解決方法や答えを学び合えるようにしましょう。

- ・比較・分類・関連付けなどが行えるように、発問や板書を工夫しましょう。
- ・他の児童生徒の考えを説明させたり、切り返し・ゆさぶり発問をしたりして考えが深まるようにしましょう。

※ ③で解決できなかった児童生徒が、④⑤で解決できるようにしましょう。

※ ③④⑤は、授業によって弾力的に組み合わせて行いましょう。

※ 問題の解をどのように導き出したかを説明する活動を充実させましょう。



⑥ まとめ：本時の学習で何を学んだかが分かるように、児童生徒と一緒にまとめましょう。

- ・めあての答えになるようにしましょう。

⑦ ふりかえり：本時の児童生徒自身の学びを振り返らせましょう。

- ・何を学び何ができるようになったかを、自分の言葉でまとめさせましょう。

⑧ 活用問題：本時で学習したことを活用する問題を出題しましょう。

- ・問題を解くことで、学習内容の定着や活用する力の伸長が図れるようにしましょう。
- ・ゆとりがあるときに行ったり、宿題として出したりしましょう。

妙義3校ノート指導のルール

- ノート指導のルールを3校で統一し、学年や校種が替わっても、ノートのとり方の経験や技能が継続・蓄積して生かせるようにしましょう。
- ノート指導を全ての教科等で継続的・系統的に行うことで、児童生徒が自らの思考を整理し、理由や根拠を明確にしながら表現する力を向上させましょう。

- ◇ 赤青鉛筆をもたせましょう。
- ◇ 自分の考えの理由も書かせましょう。
- ◇ 思考の流れが分かるノートにしましょう。(途中を省略しない)
- ◇ 自分の考えでなく、友だちの考えも書かせましょう。
- ◇ 友だちの考えは「青」、考えを変えた場合は「赤」で書き、自分の考えと区別させましょう。
- ◇ 他の考えと比較して気付いたこと(共通点、差異点、よさ)も書きましょう。
- ◇ 先生の話など(板書しない)で、大切なことはメモする習慣を身に付けさせましょう。
- ◇ 色ペンやマーク、吹き出し等により、見やすく分かりやすいノートになるようにしましょう。
- ◇ 授業中にノートのとり方の助言を行ったり、授業後にノートを回収してよい点を朱書したりしましょう。

※ ここに示したルールは、学年の実態や発達段階に応じて指導してください。

